化粧品OEMメーカーの素顔

コスモビューティー

関東篇

伸びる中国向け化粧品
国内通販市場へ提案強化

売上高153億円

連載企画「化粧品OEMメーカーの素顔・関東篇」今回は株式会社コスモビューティー（東京本社・東京都板橋区成増、03－6631－6910、大阪本社・大阪市此花区島屋、06－6460－3120、山添隆社長）に登場頂いた。

コスモビューティーは1949年（昭和24年）、大阪市都島区で化成品メーカー、モクケン化学工業所として創業。その後1986年にモクケンから化粧品部門が独立する形でコスモビューティーが誕生。以後様々な変遷を経て、2010年に化粧品GMP（IS022716）に対応する新工場（関東工場）、2015年10月に中国国内の内需に対応する中国・南通工場、同年11月にベトナム・ホーチミン第二工場を開設するなど、国内外で生産ハードを整え、現在は化粧品製造を主軸にしながら医薬部外品、医薬品まで事業を拡大している。

現在の同社は、東京・大阪の2本社制で、生産拠点は国内3工場（大阪2、埼玉1）、海外3工場（ベトナム2、中国1）の計6工場。研究所は東京、大阪、埼玉の3か所に設置。従業員数は海外を含めたグループ全体で約620人（うち国内280人）。

売上高は153億円（2016年3月期決算）で、うち海外（中国）売上高は20億円超。事業別構成比では化粧品・医薬部外品・医薬品OEMがおよそ9割を占め、残りが業務用化成品・雑貨NB事業等。化粧品の内訳はバス・トイレタリー製品が50%、スキンケア製品が25%、残りが上記以外のアイデア化粧品、ファンデーションなど一部ベースメイク製品もある。

「近年の当社売上面で最も大きい起爆剤は中国向け化粧品。来期は30億円を超える見込みだ。当社は2020年に売上高200億円に照準を合わせているが、中国売上高は50億円を計画している」（山添社長）。

同社の生産設備面での特徴の一つが半自動多モジュール型充填機を数多く備えている点。これにより、従来自動化が難しい小量多品種生産でも、組み合わせ次第で全自動に近い効率性を発揮するという。製造釜も下は20㌔から上は5㌧まで、大ロット～小ロットに幅広く対応するラインナップ。生産ラインは主力の関東工場（埼玉県）と大阪工場がそれぞれ約15ラインの計30ラインと目され、関東工場は大ロット、大阪工場は小ロット品を中心に生産している。海外工場を含めた生産比率は関東工場約40%、ベトナム工場35%、大阪工場25%と目される。

山添　隆社長

「当社の工場・生産設備の特徴はクリンリネス（クリーン環境）に秀でている点。例えば関東工場は医薬品製造が可能なクリーン度の環境を備え、また、昨年完成したばかりの中国工場やベトナム工場もGMPに準拠した工場で、海外においてもクリンリネスの概念を徹底した日本の高水準の品質レベルを実現した工場運営を行っている」。

現在同社では国内においては通販市場、海外では中国市場と、2つのマーケット開拓を重点的に進めているという。

「今後、当社では基礎化粧品（スキンケア）を伸ばしていくという方向性で、そのために通販化粧品メーカーに対するマーケットイン型の企画提案を強化している。中国市場については、安全・安心・品質で差別化する日本のものづくりを中国でも実行して行こうという考え方で、これはベトナムも同様。中国については成長市場であることからも選り好みせず、メイドインジャパンで行くも良し、メイドインチャイナで我々の工場を動かすも良し、動けるだけ動いている」。

また、同社では今期から社内に新たに国際薬事部という海外各国の薬事、禁忌成分や広告表現などを調査する部署も設立している。

昨年10月に開設した中国工場

最後に同社からマーケットへの最新提案材料として、最近注力しているという独自の素材開発について紹介する。

同社ではこのほど、特殊なコラーゲンの抽出に成功。これは、素材となる魚種の選定から、発酵技術を使ったという特殊な処理・脱臭方法まで、特殊な製法で抽出されたコラーゲンで、高い保湿性と官能評価（ニオイ）を特徴として持ち「ニオイのせいで高配合できないという、業界の根本的な問題に風穴を開けられる素材になった」という。

このほか、同社では関東工場にコスモファームと名付けたオーガニック農園も開設。完全オーガニック素材から抽出するエキス開発も毎年10アイテムずつ程度増やしていくという。

「さらに今年は発酵技術を使ったエキス開発を大学と連携して進めており、2－3年後の実用化を目指して基礎研究を始めている。現在当社では基礎研究には特に力を入れており、使用感だけでなく、使って頂けるような基礎研究を着々と進めている」。